

じょうもんじだい 縄文時代

約1万5000年前～約2400年前頃



ねん^ど土^やを焼^{つく}いて作^{つく}った土^{どき}器^{はつめい}が発^た明^{めい}され、食^たべ物^{もの}を煮^にたり、蓄^{たくわ}えたりするこ^とができるよ^うになりました。この土^{どき}器^{はつめい}には縄^{なわ}目^めの文^{もん}様^{よう}が^つ付^けられてい^ることか^ら、「縄^{なわ}文^{もん}土^{どき}器^{はつめい}」と呼^よば^れま^す。「縄^{なわ}文^{もん}土^{どき}器^{はつめい}」が^{つか}使^{つか}わ^れた時^じ代^{だい}を「縄^{なわ}文^{もん}時^じ代^{だい}」とい^いま^す。

縄^{なわ}文^{もん}時^じ代^{だい}には地^ち球^{きゅう}全^{ぜん}体^{たい}の気^き温^{おん}が上^あが^り、氷^{ひょう}が^と溶^とけ^て海^{かい}面^{めん}が上^{じょう}昇^{しょう}しま^した。なん^との^だし^いき^う野^の田^だ市^し域^{いき}も海^う沿^みい^ぞの^とち^ち土^ど地^ちだ^った^こと^が分^わか^って^いま^す。

